

マシ キ マチ
益城町



西村 博則 町長

平成28年熊本地震により大きな被害を受けた本町では、震災から得た教訓を活かし、協働・共創のまちづくりに取り組んでいます。その取組のひとつとして、震災以前よりも魅力あるまちへ発展することを目指し「益城町バージョンアップ大作戦」を立ち上げました。

本町の目指す将来像「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」の実現に向けた取組にご興味をもっていただける企業様からの支援を心よりお待ちしております。

- 寄付御礼**
- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額100万円以上)
 - ・感謝状贈呈(寄付額100万円以上)
 - ・地公体広報誌掲載
 - ・HP掲載
 - ・視察受入
 - ・功労者表彰推薦
 - ・紺綬褒章推薦
 - ・その他

人口	面積
総人口……32,510人	総面積……65.68km ²
男……15,602人	農用地……22.40km ² (34.1%)
女……16,908人	森林……19.10km ² (29.1%)
世帯数……11,744世帯	宅地……6.96km ² (10.6%)
人口構成比	教育機関
15歳未満……15.9%	小学校……5校
15～64歳……54.0%	中学校……2校
65歳以上……30.1%	高等学校・高専……—
	大学・専門学校他……—

産業構造

第1次産業……2,728(1.6%)
第2次産業……58,293(35.0%)
第3次産業……105,383(63.3%)

生産総額:百万円



交通アクセス

- 益城町役場まで
- 阿蘇くまもと空港から……約5km
- 九州自動車道
- 益城熊本空港ICから……約4km
- JR 光の森駅から……約8.5km

※データは令和4年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

第2期益城町まち・ひと・しごと創生推進総合戦略

第2期総合戦略4つの政策目標



- 1 基本目標 安心・安全な暮らしを守り地域間の連携を進めます**
生活の環境や基盤の整備や、生活利便性の向上を図るなど、安心して暮らせるまちづくりを住民や関係機関等と連携して推進します。
- 2 基本目標 若い世代の移住・定住の流れをつくります**
移住を検討している若い世代に興味を持ってもらい、足を運んでいただくため、交流人口や関係人口の拡大を図る政策を推進します。
- 3 基本目標 希望に沿った子育て等ができる環境をつくります**
結婚・出産・子育てがしやすい魅力的な生活環境を整えるため、子育て環境の整備や相談体制の構築に取り組めます。
- 4 基本目標 多世代にわたって安定した雇用を創出します**
本町の特徴を活かした企業等も視野に入れながら、魅力ある「しごと」づくりを行い、若者を中心とした多世代の就労を支援します。

益城町

新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み

1 **いきいきと健やかに暮らせるまちづくり**

地域コミュニティの再建や構築、高齢者や、障がい者、子ども等の見守り体制の構築など、安心して暮らすことができる環境整備が必要です。また、住民や民間等と協働し、安心して子どもを育てることができる環境を目指します。

企業様へ
健やかに暮らせるまちに向けて、見守り体制や子育て環境の充実に繋がる企業様からのご支援ご提案をお待ちしております。



児童・幼児用遊具もある潮井自然公園

2 **地域力による創出する活気あるまちづくり**

農産物の特産品づくりやブランド化等、農業の活性化に向けた取組や、企業誘致や創業支援を図ることとし、しごとづくりを推進します。また、住民主体の地域資源を活かした活動の推進・周知を図り、交流／関係人口の増加に繋がります。

企業様へ
農産品の活用や、しごとづくり、地域資源を活かす活動の推進・PRにより活気あるまちに向けた企業様のアイデアをお待ちしております。



益城町の特産品「スイカ」

3 **誰もが主役になれる個性的なまちづくり**

地震後、活発になった住民主体の活動を支援することで、公益性の高い活動を担い、協働のまちづくりに繋がることが期待されます。若い世代から高齢者まで参画すること重要であり、持続可能なコミュニティづくりを民間等と支援します。

企業様へ
地域コミュニティの充実に向けて、多世代が関わり、住民主体でも長く活動を継続できるような活動へのご提案やご協力をお願いいたします。



地区持ち回りで開催されるお法師祭

4 **まちの魅力を伝えみんなに選ばれるまちづくり**

地震の際には多くの方にご支援いただきましたが、益城町の復興状況や子育てしやすい環境や恵まれた立地を町外へ発信することで、益城町に興味関心を持ってもらい、交流人口や関係人口の増加、ひいては移住定住者の獲得に繋がっていきます。

企業様へ
益城町に興味関心を持っていただき、本町に関わりのある人々の増加につながるようなPRや企画など企業様からのご支援・ご提案をお待ちしております。



益城町ぎゅぎゅっとマップ

重点プロジェクト

熊本地震からの復興と新たな人の流れやにぎわいの創出を目指す

<SDGs>関連するゴール



総事業費 1,616,500千円 寄附目標額 —
 数値目標 ●交流人口………250万人
 ●こども人口……… 5,200人

背景・現状の課題

2016年に発生した熊本地震により、町内の住家の約98%が被害を受け、震災前は増加傾向にあった本町の総人口は、一時1,700人程度減少していました。このまま人口減少が進むと、地域コミュニティの希薄化やにぎわいの衰退が進み、過疎化や地域経済の低迷、自治会の維持が難しくなるといった問題が懸念されます。

本町では、復旧・復興の指針となる「益城町復興計画」において将来目標人口を36,000人と掲げました。この目標を達成するためには、ハード・ソフトの両面から町の活気やにぎわいの創出に取り組み、これまで以上に住みやすいまちづくりを推し進めていく必要があります。



県道熊本高森線の4車線化一部供用開始

事業の目的・内容

熊本地震からの復興と新たな人の流れやにぎわいの創出を目指して、「官民共創」により教育やまちづくり、観光など様々な分野で新事業を推進し、関係人口の拡大や未来を担う人材の育成を図ります。しかし、震災からの復旧・復興に大きな支出が発生しており、町のにぎわいづくりに十分な資金を充てるのが難しい状況となっています。また、新技術やトレンドを取り入れつつ町のバージョンアップを目指す当プロジェクトにおいて、実行・運営面でのノウハウも不足しています。企業の皆様から、資金面や事業運営のノウハウをご支援いただきながら、地域の魅力づくりを推進します。

自然に囲まれた公園の再整備などによる「子どもバージョンアップ作戦」、古民家再生や創業支援を通じた「まちの魅力バージョンアップ作戦」、観光マップの作成や教育旅行誘致による「集客への取組みバージョンアップ作戦」、消防団設備の更新や自主防災組織の充実を目指す「防災バージョンアップ作戦」に取り組みます。



益城町バージョンアップ大作戦!

寄附の具体的なメリット

震災からの復興と同時に取り組む当プロジェクトでは、資金やノウハウ面でご支援いただける企業を募集しています。寄附にご協力いただいた際には、創業支援拠点のサテライトオフィス利用や再生古民家でのワーケーション活用、町内での社員研修などを積極的に提案させていただきます。

寄附申出書の事業名選択時は「益城町バージョンアップ」を選択してください。

重点プロジェクト

誰でも自由に利用できる地区コミュニティの拠点をめざす

<SDGs>関連するゴール



総事業費 100,000千円 寄附目標額 —
 数値目標 ●交流人口………250万人
 ●益城町は生活しやすい… 町内アンケートによる満足度0.48→1.00%

背景・現状の課題

益城町では、2018年に第6次益城町総合計画を策定し、「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」をまちの将来像に掲げ、熊本地震からの復旧・復興に取り組んでいます。町内では被災により居住環境が大きく変化したことで、地域交流の停滞やコミュニティの希薄化が生じており、地域コミュニティの再生と地域活力の復興が急務となっています。

昨年、地域の拠点をめざして復興まちづくり支援センター「にじいろ」の供用を開始しました。今後は利用方法の周知や企画等を通じて利用者の増加を図る必要があります。また、2019年に町公民館等の再建を図るため「益城町複合施設建設基本計画」を定め、整備を進めています。



復興まちづくり支援センター「にじいろ」

事業の目的・内容

役場新庁舎の南側に位置にする「にじいろ」では、子どもからお年寄りまで自由に利用できる交流と住民活動の場所であるとともに、熊本地震の記憶などを後世に伝える場所、平常時は自主防災組織等の活動に、災害時に応急対策のスペースに活用する災害に備える場所を施設の基本方針とし、「気軽に集える」をキーワードに、地域の方々と一緒にあってつくりあげる「わくわく」の生まれる場所を目指します。また、「複合施設」は、地震による被害を受けた益城町公民館、男女共同参画センター、地域ふれあい交流館の再建と多世代交流、地域活性化の拠点となることを目指しています。

「にじいろ」では、地域おこし協力隊の隊員が施設を利用した企画や利用者への支援に取り組んでおり、地震の被害等を展示する記憶のプロムナードや住民の方が利用できる会議室を設けています。「複合施設」は役場仮設庁舎跡地にて、3施設の機能に加えて複合化による新たな役割や基幹避難所の機能を担う予定です。



「複合施設」イメージ図

寄附の具体的なメリット

「にじいろ」や「複合施設」の整備や利用方法について資金面や企画提案などでご支援いただける企業を募集しています。本町の古くからの中心であり、復興の事業も進む木山地区において、「にじいろ」や「複合施設」が地域の拠点となるよう応援いただける企業をお待ちしています。

寄附申出書の事業名選択時は「復興まちづくり支援」を選択してください。

●その他の寄附事業に関しましては、最寄りの肥後銀行までお問い合わせください。